

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立牧野高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度指標「牧野高校の授業はわかりやすい」の向上 ・ 国公立大学への現役進学者数の増加
計画名	Class Reform Project of Makino's Action Plan for Paradigm Shift 2020 (CRP MAPPS 2020) (「牧野高校 令和2年 大転換計画」のひとつとして実施する「授業改善プロジェクト」)

2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 「確かな学力」の育成と授業改善</p> <p>(1) 新学習指導要領を踏まえるとともに高大接続システム改革を見越し、大阪府教育振興基本計画の下、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 全教員による継続的な授業改善と相互連携で、学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を令和2年度までに80%以上にする。(平成29年度69%) ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、ICT機器やネットワーク環境を充実させて、令和2年度までに80%以上の教員がICTを活用した授業を展開できるようにする。(平成29年度59%) ③ 入学時の学力を維持、向上させるために、生徒に「学ぶ楽しさ」を実感させ、学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への肯定的回答を、令和2年度には80%以上にする。(平成29年度45%) ④ 国公立大学への現役進学者を令和2年度までに卒業見込み者の10%以上にする。(平成29年度6%)
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板機能付き超短焦点プロジェクター18台を、第1学年9クラス、第2学年9クラス、計18クラスの教室に設置し、担当する全ての教員が、普通教室でICT機器を利用した授業を展開できるようにする。 ・ 電子黒板機能により、新大学入試制度を意識した生徒の思考・判断・表現力強化や、英語4技能強化を実現する。 ・ 第3学年10クラスと少人数展開用3教室の合計13教室については、当面、既存の移動式プロジェクターを占有して使用できるようにし、希望の進路実現に効果を上げるとともに、本件プロジェクトの実施結果を検証し、速やかに、電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターを設置する方策を検討して行く。
取り組みの 主担・実施者	<p>MAPPS 2020 全体プロジェクト・リーダーを任命した首席を主担とし、本校が平成29年度に参加した「育成支援チーム」事業の中で形成されたミドルリーダー候補者で、主に授業改善に関する研究を担当し、都立高校等への出張、調査研究、発表をした6名の中堅・若手教諭（理科、社会科、英語科、数学科、国語科、社会科）を中心に、CRP MAPPS 2020 のメンバーに任命して、実施していく。</p>
本年度の 取組内容	<p>ICTを利用する校内研修等を継続的に実施してきた結果、今年度は全ての教科でICTを利用した授業が行われ、学校教育自己診断で、93%の教員がICTを活用した授業を行っている」と回答</p>

	<p>(本件導入前は 59%) し、91%の生徒が ICT を利用した授業が多いと回答 (本件導入前は 54%) した。</p> <p>電子黒板機能に通じた教員が増え、スライドや動画、電子ペンを使った授業を行っている。</p> <p>大阪府教育センターの「パッケージ研修」を昨年度に引き続き今年度も導入し、8月にウェアラブルカメラを含めた三箇所のカメラで授業を撮影して研究授業を行い、9月にはその授業動画を編集して「良い授業とは何か？」について全教科の教員で研究協議を行った。</p> <p>この手法は、採用初年度の2名の教員の授業改善にも使った。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を 80% 以上にする。</p> <p>② 80%以上の教員が ICT を活用した授業を実施できるようにする。</p> <p>③ 学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への肯定的回答を 80%以上に する。</p> <p>④ 国公立大学への現役進学者を卒業見込み者の 10% (36 名/360 名) 以上にする。</p>
<p>自己評価</p>	<p>① 学校教育自己診断の「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、最近 4 年間で 69%⇒76%⇒77%⇒78%となり、4 年で 9 ポイント改善した。このうち「よくあてはまる」の回答は、最近 4 年間で 9%⇒15%⇒16%⇒19%となり、4 年で 10 ポイント改善した。目標の 80%以上には及ばないまでも、着実に上昇した。…………… (△)</p> <p>② 学校教育自己診断の「ICT 機器等を活用した授業を行っている」に肯定的な回答をした教員は、最近 4 年間で 59%⇒80%⇒81%⇒93%となり、4 年間で 34 ポイントと飛躍的に増加し、目標の 80%を大幅に上回った。…………… (◎)</p> <p>③ 学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」の生徒の肯定的回答は最近 4 年間で 45%⇒47%⇒49%⇒53%となり、4 年間で 8 ポイント改善した。目標の 80%以上には及ばないまでも、着実に上昇してきている。…………… (△)</p> <p>④ 国公立大学への現役進学者は、卒業見込み者の 2% (8 名/353 名) であった。本校の授業改善は進んだが、大学入試制度が変更されたことや、大学入学共通テスト自体の実施内容が二転三転したこと、更には前々年度と前年度に私立大学の定員厳正化で合格者が絞られたことが大きく影響し、生徒の安全志向、私立大学への推薦入試希望者増に拍車がかかり、目標の 10%を大幅に下回る状況になっている。…………… (△)</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターは、学校経営推進費で購入した 18 台を含め現在は校内 35 教室に設置されている。3 年前から校内に授業改善委員会を設置し、研修等を継続的に実施してきた結果、全ての教科でスライドや動画、電子ペンを利用する ICT 活用授業が行われるようになった。多くの教員が電子黒板機能を活用し、授業の充実をめざすようになってきている。この結果、生徒の授業アンケートでは、全教員平均が H29 年度第 1 回の 3.10、第 2 回の 3.13 から、実施の都度着実に上昇し、H30 年度第 1 回は 3.19、第 2 回は 3.23、R1 年度第 1 回は 3.25、第 2 回は 3.24、R2 年度第 1 回は 3.32、第 2 回には 3.33 と、4 年間で 0.23 ポイント上昇した。想像を上回る向上を続けている。</p> <p>大阪府教育センターの「パッケージ研修」を 2 年連続で実施し、R2 年 8 月にはウェアラブルカメラを含む三箇所のカメラで授業を撮影して研究授業を行い、9月にはその授業動画を編集して「良い授業とは何か？」について全教科の教員で研究協議を行った。この手法は、採用初年度の 2 名の教員の授業改善にも大変有効であった。意欲あるミドルリーダーが育ち、経験年数の少ない教員から経験豊富な教員まで巻き込んで、教員主導で授業改善の取組みが続いている。今後とも全教科の教員が参加する授業改善の取組みは続けていけるものと考えている。</p> <p>今後とも「牧野高校の授業はわかりやすい」ということの追求を持続させて、生徒の学力を向上させ、希望進路の実現に繋げたい。</p>